

V-1 幼児教育の充実

子どもたちが健やかに育まれるよう、認定こども園・幼稚園や関係機関と小学校との連携を密にし、小学校への円滑な接続・移行に努めます。また、幼児教育を希望する子どもたちが平等に教育を受けられるよう、運営支援に努めます。

【現状と課題】

本市の幼児教育は、すべての認定こども園・幼稚園が子ども・子育て支援新制度に基づく施設型給付費[※]による施設運営に移行し、幼児教育の提供体制の充実が図られてきていますが、質の高い幼児教育を保障するためのさらなる体制の充実を図る必要があります。また、発達の遅れなどにより支援の必要な園児に対し最善の支援を提供していくためには、園児の就学に向けた小学校との連携を図るとともに、発達支援関係機関が連携し取組を推進していくことが必要です。

【中期計画期間の方向性】

認定こども園・幼稚園の子ども・子育て支援新制度に基づく施設運営に対する支援、体制の充実を図ります。また、すべての園児が希望をもって就学できるよう、小学校や関係機関との連携を深め、小学校教育への円滑な接続・移行に向けた取組を推進します。

【主な成果指標】

指標項目	基準値	目標値	計画 3/4 年目	達成率
支援が必要な乳幼児の幼児教育受入施設数	4カ所 (2016)	5カ所 (2022)	5カ所	100%
特定教育の必要量の確保	285人 (2016)	465人 (2022)	360人	77.42%
幼児教育・保育における小学校への接続人数	138人 (2016)	206人 (2022)	194人	94.17%

【主な実施計画事業等】

- 民間特定教育・保育施設への運営支援

【関係する個別計画】

- 名寄市子ども・子育て支援事業計画

中期基本計画 基本目標主要施策成果と課題について

主要施策名	V-1_幼児教育の充実
-------	-------------

① 現状と課題の解決のため取り組んだ事業の成果など（事業実績）

子ども・子育て支援新制度に基づく施設運営に対して支援を図ってきた。
また、幼児教育・保育の無償化に伴う給付認定制度の改正を行い、これに基づく給付の実施を行った。

② 解決された課題と事業実施後（中）の現状と今後の課題

幼児教育・保育の無償化に伴い、子育て世代の経済的負担の軽減が図られた。
無償化に伴い、これまで幼児教育（1号認定）を受けていた幼児が保育（2号認定）へ認定を変更する世帯が多いことから、3歳以上児の保育体制の充実を図るため、認定こども園への移行を促していく必要がある。

※ 上記の事業実績と現状と今後の課題のまとめ

3歳以上児の保育体制の充実を図るため、認定こども園への移行を促し、引き続き名寄市子ども・子育て支援事業計画の推進を図る。

V-2 小中学校教育の充実

生きる力を育てる教育や特別支援教育、国際理解教育、情報教育等の社会の変化に対応する力を育てる教育などの充実、教職員の資質向上や地域社会と連携した信頼される学校づくりの推進、教育効果を高めるための計画的な学校施設の整備に努めます。

【現状と課題】

知・徳・体の調和のとれた子どもの育成が望まれており、名寄市教育改善プロジェクト委員会の取組を通じた授業改善、道徳教育の充実、スポーツ・合宿推進課と連動した体力づくりの取組が必要です。また、信頼される学校づくりが求められていることから、保護者などへの教育活動状況などの発信や教職員の研修の充実が必要です。さらに、安全安心な教育環境の整備が期待されており、危機管理体制の確立や学校施設の保全対応が必要です。

【中期計画期間の方向性】

子どもたち一人ひとりの状況に応じたきめ細かな教育の提供、学校と家庭・地域が目標を共有し協働して課題に対応する「地域とともにある学校」づくり、研修による教職員の資質向上、危機管理体制の確立と安全に過ごせる学校施設の補修・改築事業を進めます。

【主な成果指標】

指標項目	基準値	目標値	計画 3/4 年目	達成率
全国学力・学習状況調査全科目の結果	—	全科目 全国平均以上	小学校は 2 科目の中で 1 科目が全国平均以上、1 科目が全国とほぼ同様 中学校は 2 科目全てが全国平均以下	—
全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果	—	体力合計点 全国平均以上	小学 5 年男女、中学 2 年男子の各体力合計点が、全て全国平均以上。中学 2 年女子の体力合計点は、全国平均以下	—
学校運営協議会の設置状況	小学3中学1校 (2017)	全小・中学校に 設置 (2022)	全小・中学校に設置	—

【主な実施計画事業等】

■教育改善プロジェクト委員会推進事業 ■心の教室相談員配置事業 ■小中学校情報機器整備事業 ■外国青年(外国語指導助手)招致事業 ■地域学校協働活動の充実 ■スクールバス運行事業 ■小中学校施設補修事業 ■智恵文義務教育学校施設整備事業 ■名寄中学校・名寄東中学校施設整備事業 ■学校における働き方改革推進事業 ■特別支援教育推進事業 ■部活動改革の推進

【関係する個別計画】

■名寄市学校教育推進計画 ■名寄市小中学校適正配置計画 ■名寄市小中学校施設整備計画

中期基本計画 基本目標主要施策成果と課題について

主要施策名	V-2_小中学校教育の充実
-------	---------------

① 現状と課題の解決のため取り組んだ事業の成果など（事業実績）

- ・教育改善プロジェクト委員会推進事業・・・市内小中学校が一体となり学校力向上を図るため、小中連携の促進と GIGA スクール構想など課題解決に向け取り組みを推進した。
- ・心の教室相談員配置事業・・・3 中学校に心の教室相談員を配置した。
- ・コミュニティ・スクールの導入・・・全小中学校に導入した。
- ・スクールバス運行事業・・・スクールバス運行規定を改定し利用者の範囲拡大を図った。
- ・市内小中学校改築事業・・・風連中央小学校の改築完了、智恵文小学校は、智恵文中学校と小中一貫教育を推進するため義務教育学校新設に向け整備を実施する。

② 解決された課題と事業実施後（中）の現状と今後の課題

- ・学校力向上に加え、部活動改革を含む学校における働き方改革の推進が課題となっている。
- ・スクールソーシャルワーカーなどによる児童生徒、保護者等への効果的な支援が必要と考える。
- ・地域学校協働活動の充実を図る必要がある。
- ・令和 6 年度の智恵文義務教育学校開校に向け整備を進める。また、名寄市街地区にある 2 中学校施設は未耐震化に加え老朽化も著しいため、早急な耐震化整備に向け検討の必要がある。

※ 上記の事業実績と現状と今後の課題のまとめ

児童生徒一人ひとりの状況に応じたきめ細かな教育の提供、学校と地域学校協働本部が連携した地域学校協働活動の充実。老朽化した学校施設の改築や維持・補修・大規模改修など安全安心な教育環境の整備に努める必要がある。

V-3 高等学校教育の充実

高等学校の再編整備にあたっては、関係機関と連携を図り、高校進学者数に見合った間口の調整や生徒の希望に沿った学ぶ環境の維持などの取組を進めるとともに、地域を担う人材を育成する魅力ある高校づくりに向けた支援体制の充実に努めます。

【現状と課題】

高等学校教育においては、国際化・高度情報化の進展など、様々な社会の変化に対応できる人材の育成が求められる中、上川北学区では少子化の進行に伴う中卒者数の減少から、平成32年度（2020年度）には市内道立高校の1間口削減が検討されています。高校進学希望者数に見合った募集定員の確保、生徒の希望に沿った学ぶ環境の整備など、地域の実情を考慮した適正規模の高校配置が必要です。

【中期計画期間の方向性】

市内の望ましい高校配置については、生徒の希望に沿った学ぶ環境の整備や地域の産業を支える人材育成などが重要なことから「名寄市内高等学校在り方検討会議※」で議論された学科や学校の再編のあり方、有効な支援策などを検討しながら進めます。

【主な成果指標】

指標項目	基準値	目標値	計画3/4年目	達成率
高校生資格取得支援者 人数	166人 (2017)	200人 (2022)	4月未確定	-

【主な実施計画事業等】

■名寄市高校生資格取得支援事業の充実 ■名寄産業高等学校入試受験者交通費等補助事業 ■名寄市内高等学校再編支援事業

【関係する個別計画】

中期基本計画 基本目標主要施策成果と課題について

主要施策名	V-3_高等学校教育の充実
-------	---------------

① 現状と課題の解決のため取り組んだ事業の成果など（事業実績）

・名寄市高校生資格取得支援事業・・・市内高校に在学する生徒の資格取得に要する受験料等を支援した。

・名寄産業高等学校入試受験者交通費等支援事業・・・産業高校は令和5年度より名寄高校と統合されることから、令和4年度入学受験者を最後に事業終了となった。

② 解決された課題と事業実施後（中）の現状と今後の課題

市内の2つの高等学校は、令和5年度に再編統合され新設校となることから、生徒や保護者から魅力ある高校となるよう、北海道教育委員会と十分に連携を図るとともに、特色ある支援策の検討が必要となる。

※ 上記の事業実績と現状と今後の課題のまとめ

上川北学区では、少子化に加え、市外の高等学校に進学する中卒者が増えてきている。そのため、令和5年度に再編統合される新設校においては、生徒の希望に沿った学ぶ環境の整備など、魅力ある高校となるよう北海道教育委員会と十分に連携を図るとともに、特色ある支援の検討が必要となります。

V-4 大学教育の充実

将来構想の推進など、長期的視野に立った大学運営を進めるとともに、地域性を重視した大学として、施設及び設備の充実を図ります。また、蓄積した教育研究を地域経済、地域社会の発展等に活用するとともに、公開講座などの開催により市民に開かれた大学になるよう努めます。

【現状と課題】

保健福祉学部再編強化に伴う大型の施設整備は概ね終了しましたが、今後は老朽化した既存施設の改修や維持管理が大きな課題となっています。また、本市が設置する大学として、質の高いケアの専門職の養成や地域の政策課題への関わりなどが求められることから、知の拠点である大学として、子ども・障がい者・高齢者をはじめとするすべての市民がこの地域で安心して暮らせる環境づくりに貢献していくことが必要です。

【中期計画期間の方向性】

大学の理念及び目的を達成するため、教育研究のさらなる充実に努めるとともに地域性を重視した大学として、施設及び設備の整備・充実に推進します。また、公開講座の開催など地域貢献に資する事業を進めるとともに、学生が卒業後も本市に定着するよう取組を推進します。

【主な成果指標】

指標項目	基準値	目標値	計画 3/4 年目	達成率
卒業生市内就業者数	7人 (2017)	20人 (2022)	12人	60%
企業情報提供機会 (ミニジョブカフェ)	1回 (2017)	2回 (2022)	0回	0%
公開講座の開催回数	4回 (2017)	5回 (2022)	2回	40%
リカレント [※] 講座開催回数	6回 (2017)	7回 (2022)	4回	57.14%

【主な実施計画事業等】

■海外短期留学等支援事業 ■既存校舎等改修事業 ■校舎バリアフリー化推進事業 ■情報及び実習環境整備事業 ■コミュニティケア教育研究センター活動推進事業 ■名寄市立大学卒業生の地元定着促進事業 ■給付型奨学金等給付事業 ■名寄市立大学学生寮整備事業

【関係する個別計画】

■名寄市立大学の将来構想(ビジョン 2026)

中期基本計画 基本目標主要施策成果と課題について

主要施策名	V-4_大学教育の充実
-------	-------------

① 現状と課題の解決のため取り組んだ事業の成果など（事業実績）

既存施設は、築年数が経過し施設内の老化が激しく暖房設備の改修が必要だったため、平成31年度に3号館南温水配管工事を行った。

また、障がい者差別解消法の施行により障がい学生支援のための体制整備が求められ、学内に学生支援ワーキング会議を設置し平成28年度に対応要領を作成した。その翌年には、3号館南側1階出入り口の自動ドア化、車いすスロープの設置、2階のトイレを多目的トイレに改修するなど事業の成果がある。

② 解決された課題と事業実施後（中）の現状と今後の課題

経済的理由により修学が困難な者に対して給付型奨学金等を給付することにより、学修を奨励し有用な人材育成に資してきた。

また、卒業生の地元定着を推進し人口の維持、まちの活性化に寄与するため就業支度金を支給するなどの地元定着促進を進めてきた。

今後とも意欲ある学生に寄り添った継続的な支援が求められる。

令和元年度末から令和3年度にかけて、新型コロナウイルスの影響により、公開講座等の開催が制限された。地域貢献に資する事業の開催方法等について、オンラインの活用などの工夫が必要となる。

※ 上記の事業実績と現状と今後の課題のまとめ

今後とも各施設の活用を見極めながら快適な学修環境の提供が必要であり、また、公開講座等の開催による地域貢献や卒業生の地元定着が継続するよう計画に沿った事業の実施が求められる。

V-5 生涯学習社会の形成

市民が生涯にわたって主体的に学び、心豊かな人生を送ることができるよう、社会教育拠点施設の整備や指導者の育成、学習活動の推進など、生涯学習環境の充実に努めます。

【現状と課題】

市民のライフスタイルの多様化や地域の教育力の低下などが指摘されており、市民が積極的に学び、社会参加する環境づくりが必要です。また、市立名寄図書館など建築から年数が経過している社会教育施設が多いことから、改修などの施設整備に向けた検討が必要です。市立天文台は、市内外から多くの来訪者を迎え、各種研究機関などとの交流も図られていることから、今後も研究施設としての役割を果たしていくことが必要です。

【中期計画期間の方向性】

市民が生涯にわたって主体的に学び、充実した人生を送ることができる環境の充実、社会参加の促進に向けた取組、社会教育施設の計画的な整備に向けた検討を進めます。また、市立天文台を活用した市内外への情報発信や交流事業を進めます。

【主な成果指標】

指標項目	基準値	目標値	計画 3/4 年目	達成率
市民講座参加者数	302 人 (2017)	320 人 (2022)	170 人	53.13%
北国博物館来訪者数	11,765 人 (2017)	12,000 人 (2022)	7,410 人	61.75%
図書館入館者数	41,839 人 (2017)	42,000 人 (2022)	28,957 人	68.95%
天文台来訪者数	12,278 人 (2017)	12,500 人 (2022)	5,251 人	42.01%

【主な実施計画事業等】

■ 図書館本館の改築 ■ 高齢者学級運営事業 ■ 公民館分館事業 ■ 公民館市民講座

【関係する個別計画】

■ 名寄市社会教育推進計画 ■ 第3次名寄市子どもの読書活動推進計画

中期基本計画 基本目標主要施策成果と課題について

主要施策名	V-5_施策名 生涯学習社会の形成
-------	-------------------

① 現状と課題の解決のため取り組んだ事業の成果など（事業実績）

・北国博物館では、年度毎にタイムリーな話題性のある内容や季節に合わせた特別展、企画展を実施するとともに、より深く内容理解に努めてもらえるよう講演会、講座などの関連企画を実施している。

・名寄市、風連、智恵文公民館では、市民が積極的に学び、社会参加する環境づくりのため、市民講座や公民館講座、高齢者大学・学級運営などに取り組むとともに、市民の一番身近な学びにつながる公民館分館事業の支援に取り組んだ。市民講座・公民館講座では、例年実施している講座や趣味の講座などを開催するとともに、まちづくりや名寄について学びを深めた。分館事業では、地域の特性に合わせた学習や交流の事業が取り組まれた。

・ピヤンリ大学、瑞生大学、友朋学級では、高齢者の学びの場の確保とシニアリーダーの育成を目標に活動している。近年は、新規入学者が減少しているものの、コロナ禍でも旺盛な学習意欲のもと可能な限り授業やクラブ活動、行事等を実施した。

・市立天文台を活用した市内外への情報発信や交流事業を更に進めるため、様々なイベントや天文普及事業を行い、それを発信する手段として、facebookの開設や天文台webページのスマートフォン対応などを行った。また、インターネット配信を増やし、コロナ禍での新たな天文普及の在り方に取り組み多くのアクセス数を得ているほか、遠隔授業などの依頼も出てきている。

・図書館では、市民の読書活動や学習活動に資するよう、幅広い資料整備やレファレンス対応、各種行事の開催に取り組んできた。また、図書館だよりの発行やホームページにより新刊情報をはじめとする広報に努め、若い世代に対してはツイッターを活用してアプローチを図ってきた。

② 解決された課題と事業実施後（中）の現状と今後の課題

・北国博物館主催による特別展など各種事業の実施のほか、市民や協力団体による展示会を開催し、より幅広い分野の情報提供に努めている。併せて道内博物館、研究機関と連携しながらの事業展開に努めている。

・公民館では、市民講座や公民館講座、高齢者大学・学級により、青年から高齢者までの学習機会の確保に取り組んできた。今後は、市民の意向を把握しつつ、名寄の歴史や地域づくりにつながる講座の開設などの取り組みの充実を図っていく。

・高齢者大学・学級では入学者の減少に伴い、今後の大学の在り方や授業の持ち方について検討が必要。

・工夫をしながら取り組まれている分館事業については、市民に一番近い学びの場として、今後も一層の支援が必要。

・図書館で毎年度実施している利用者アンケートでは、一定程度の満足度が得られており、施設の運営等ソフト面においては今後も引き続き利用者を中心としたサービス提供に努めたい。

※ 上記の事業実績と現状と今後の課題のまとめ

- ・北国博物館では、地域の歴史や文化を継承するため、タイムリーな話題や季節にあわせた特別展など各種普及事業を継続して実施していく。市民、団体や道内博物館と連携した事業展開や研究出版活動も併せて行う。
- ・公民館では、市民の学ぶ機会確保のため、市民講座や公民講座、分館事業、高齢者大学・学級などを実施。趣味の講座などに合わせ、今後も名寄の歴史や地域づくりを考える講座の充実が必要。
- ・入学者が減少しているピヤシリ大学は今後の大学の在り方など検討が必要。
- ・市立天文台ではアフターコロナを見据え、これまでの運営状態にそのまま戻すだけでなく、新たな視点からの天文普及の方策に取り組む。
- ・総合計画をはじめとする各種計画と整合性を図りながら、今後の新図書館整備に向けて検討を進める。

V-6 家庭教育の推進

子どもたちの健全育成の基盤である家庭における教育力の向上を図り、家庭の孤立を防ぐため、幼稚園と連携した家庭教育学級の開設や講座の開催など、親子のコミュニケーションを深める機会の提供に努めます。また、子育てに配慮した環境づくりなどについて企業への啓発に努めます。

【現状と課題】

家庭を取り巻く社会環境の変化に伴い、子どもの基本的な生活習慣や他者への思いやりの心を育む家庭の教育力の低下が指摘されており、学習機会や親同士のさらなる交流促進を図る情報交換の場づくりが必要です。また、地域コミュニティの低下などによる子育て家庭の孤立や地域の教育力の低下が指摘されていることから、家庭・地域・企業が一体となって社会全体の教育力の向上を図ることが必要です。

【中期計画期間の方向性】

家庭の孤立を防ぎ、親が自信を持って子育てができるよう、学習・交流機会の充実を図るとともに、家庭や学校、地域などの連携・協力体制の構築等、地域力向上のための取組を進めます。また、豊かな心を育む体験や親子のふれあう機会の充実に向けた取組を進めます。

【主な成果指標】

指標項目	基準値	目標値	計画 3/4 年目	達成率
家庭教育学級実施事業参加者数	374 人 (2017)	380 人 (2022)	92 人	24.21%
家庭教育合同講座参加者数	65 人 (2017)	70 人 (2022)	46 人	65.71%
家庭教育支援講座参加者数	40 人 (2017)	50 人 (2022)	61 人	122%

【主な実施計画事業等】

■家庭教育学級事業 ■家庭教育支援事業

【関係する個別計画】

■名寄市社会教育推進計画

中期基本計画 基本目標主要施策成果と課題について

主要施策名	V-6_家庭教育の推進
-------	-------------

① 現状と課題の解決のため取り組んだ事業の成果など（事業実績）

子育て家庭の孤立を防ぎ、親が自信を持って子育てができるよう、家庭教育学級を2つの幼稚園に設置し、それぞれが事業を進めるとともに、家庭教育学級合同講座を開催し、親子の触れ合う機会と学習・交流の場づくりを行ってきた。

家庭教育学級以外では、家庭教育支援講座を開催し、すべての教育の基礎である家庭教育に触れる機会づくりを行ってきた。また、家庭教育に携わる親を支援するため、北海道教育委員会が進める「家庭教育サポート企業」への登録を推進してきた。

② 解決された課題と事業実施後（中）の現状と今後の課題

家庭教育学級合同講座や家庭教育支援講座の取り組みにより、家庭教育や親子の触れ合いを大切にする親が増えている。また、家庭教育サポート企業への登録企業は21企業（R2.9.30現在）となっている。

引き続き、学校教育や福祉部局との連携により、家庭教育への理解が深められるよう取り組む必要がある。

※ 上記の事業実績と現状と今後の課題のまとめ

今後も学校教育や福祉部局との連携した取り組みにより、家庭教育の推進を図っていく。

V-7 生涯スポーツの振興

スポーツを通じて子どもたちの「生きる力」を育む環境づくりを進めるとともに、スポーツによる市民の健康づくりに努めます。また、冬季スポーツ拠点化事業を推進し、本市の特徴を活かした冬季スポーツの環境整備を行い、幅広くジュニア選手の育成ができる地域づくりに努めます。

【現状と課題】

少子高齢化やライフスタイルの変化などにより市民のスポーツに対するニーズが多様化していることから、施設の改修や適正配置が必要です。また、子どもたちのスポーツ離れ、体力低下が指摘されていることから、スポーツと出会う機会の創出、指導者の確保、ジュニア選手の一貫した育成システムの構築が必要です。さらには、人口減少が地域に与える影響が大きいことから、スポーツによる交流人口の拡大を図るため、通年での合宿などを受入可能とする環境整備も必要です。

【中期計画期間の方向性】

国の第2期スポーツ基本計画の理念に基づき、本市の特徴を活かしたスポーツ事業を進めます。市立病院や大学などと連携した新しいスポーツ振興の姿を模索することやスポーツと産業などを結び付けたスポーツによる地域振興、将来的なUJターンにもつながる交流・関係人口の拡大を進めます。

【主な成果指標】

指標項目	基準値	目標値	計画 3/4 年目	達成率
親子参加型スポーツイベント参加人数	—	800 人 (2019～2022)	1,036 人	129.5%
ジュニア選手全国大会出場人数	8人 (2016)	15 人 (2022)	14 人	93.33%
スポーツ合宿入込人数	8,081 人 (2017)	10,000 人 (2022)	7,759 人	77.59%
全国規模スポーツ大会参加人数	360 人 (2016)	600 人 (2022)	867 人	144.5%

【主な実施計画事業等】

■名寄ピヤシリシャンツェ整備事業 ■スポーツセンター改修事業 ■各種大会開催事業 ■冬季スポーツ拠点化事業

【関係する個別計画】

■名寄市社会教育推進計画 ■名寄市観光振興計画

中期基本計画 基本目標主要施策成果と課題について

主要施策名	V- 57 _生涯スポーツの振興
-------	-----------------------------

① 現状と課題の解決のため取り組んだ事業の成果など（事業実績）

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・冬季スポーツ拠点化事業・Nスポーツコミッションの設立及び産官学による事業展開 |
|--|

② 解決された課題と事業実施後（中）の現状と今後の課題

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・Nスポーツコミッション事業による、ジュニア育成、市民健康増進、地域経済の活性化等の発展。・冬季スポーツ拠点化事業による、合宿者等の増加。 <p>（課題）・Nスポーツコミッションの自走化</p> |
|--|

※ 上記の事業実績と現状と今後の課題のまとめ

<p>Nスポーツコミッション事業による幅広い世代へ運動機会の創設を推進し、冬季スポーツ拠点化事業による大会・合宿の誘致に繋げている。今後は、これら事業実績をNスポーツコミッションの自走化へ繋げていことが課題となっている。</p>
--

V-8 青少年の健全育成

未来を担う青少年が心身ともに健やかに成長し、社会の一員としての人間性や社会性を身につけることができるよう、様々な体験活動や地域交流、ボランティア活動を推進するとともに、安全で健やかな成長に向けた体制づくりに努めます。

【現状と課題】

少子化などにより地域子ども会の活動が困難になり、地域と子どもたちの関係が希薄になっていることから、子どもたちの体験・交流機会の充実が必要です。また、児童生徒を犯罪から守るため、地域全体の見守り体制が求められており、地域の連携強化を図るとともに、不登校の防止や相談体制の充実が必要です。さらには、児童センターの老朽化や児童クラブと民間学童施設の利用料金の格差などが指摘されていることから、施設整備や利用料金などの検討が必要です。

【中期計画期間の方向性】

子ども会育成連合会と連携し、子ども体験・交流事業を進めます。また、青少年の健全育成を図るため、教育相談体制、児童館、放課後児童クラブ、放課後子ども教室の充実に向けた取組や児童センターの施設整備、利用料金などについての検討を進めます。

【主な成果指標】

指標項目	基準値	目標値	計画 3/4 年目	達成率
子ども体験・交流事業参加者数	72 人 (2017)	90 人 (2022)	18 人	20%
児童館来訪者数	19,886 人 (2017)	19,500 人 (2022)	9,683 人	49.66%
放課後児童クラブ登録数	274 人 (2017)	290 人 (2022)	301 人	103.79%
放課後子ども教室参加者数	32 人 (2017)	40 人 (2022)	22 人	55%

【主な実施計画事業等】

■子どもの体験学習事業 ■青少年活動事業の実施 ■子どもの安全安心を守る活動推進 ■教育相談体制の充実 ■放課後児童クラブの充実 ■児童館の整備

【関係する個別計画】

■名寄市社会教育推進計画 ■名寄市子ども・子育て支援事業計画

中期基本計画 基本目標主要施策成果と課題について

主要施策名	V-8_施策名 青少年の健全育成
-------	------------------

① 現状と課題の解決のため取り組んだ事業の成果など（事業実績）

・名寄市児童センター、風連児童会館の年間利用数は、コロナ感染拡大の影響により、以前より下回る状況となっている。

・放課後児童クラブの登録者数については、増加傾向にある。

・放課後子ども教室の参加者数については、低い状況にある。

・少子化に伴う子ども会活動の停滞などから希薄になっている地域と子どもの交流機会を築くため、へっちゃ LAND、杉並区との都会っ子交流事業やわくわく！体験交流会の「子ども体験・交流事業」を、子ども会育成連合会や実行委員会と連携しながら実施してきた。しかしながら、この2年間は新型コロナウイルス感染症対策でへっちゃ LAND と杉並区との都会っ子交流事業は中止となった。

② 解決された課題と事業実施後（中）の現状と今後の課題

・名寄市児童センター、風連児童会館、放課後児童クラブは今後も、青少年の健全育成のため、コロナ感染症対策を徹底しながら、運営に努めていく必要がある。

・放課後子ども教室については、子どもや家庭の状況をふまえて、運営の仕方を見直す予定である。

・へっちゃ LAND や都会っ子交流事業などの自然体験は、日頃できない体験を子ども同士で交流することにより、それぞれの活動の中で子どもたちは人間的に大きく成長している。このような成長の過程に、大学生や高校生のボランティアリーダーが関わることにより、子どもたちは社会的にも成長することができている。一方で、新型コロナ対策などこれまでとは違う工夫した体験交流事業を進めて行く必要がある。

※ 上記の事業実績と現状と今後の課題のまとめ

・青少年の健全育成のため、名寄市児童センター、風連児童会館、放課後児童クラブでは、コロナ感染症対策を徹底し、工夫しながら運営に努めていく。

・少子化に伴い希薄になっている子どもの交流機会を築くため、子ども体験・交流事業（へっちゃ LAND、都会っ子交流事業、わくわく！体験交流会）を実施しているが、新型コロナに対応する工夫した事業展開が求められている。

V-9 地域文化の継承と創造

市民が感動や生きる喜びを感じ、創造力にあふれる豊かな人生を送ることができるよう、文化施設の整備や指導者の育成、文化振興のための基盤整備を進めるとともに、拠点施設を中心とした鑑賞機会や参加機会の充実を図るなど、文化の創造と団体の育成に努めます。

【現状と課題】

市民文化センターとふうれん地域交流センターを拠点としてさらに多くの市民が文化芸術に親しむ機会の拡充が期待されることから、関係団体などとの連携・協働による発表や鑑賞機会の充実が必要です。また、本市の歴史や文化財、郷土芸能について、各種展示会などを通じての普及啓発や次世代への継承が求められており、調査や保存、市民の理解を深める取組の充実が必要です。

【中期計画期間の方向性】

文化芸術活動への参加・発表・鑑賞機会の充実を図るとともに、文化施設を核として、市民が文化芸術に親しむ環境づくりを進めます。また、文化財を保護するため、普及啓発に取り組むとともに、指定文化財や郷土芸能の継承に向けた支援を進めます。

【主な成果指標】

指標項目	基準値	目標値	計画 3/4 年目	達成率
来場者アンケートによる満足度	84% (2016)	85% (2022)	89%	104.71%
市民文化祭事業	50 団体 (2016)	50 団体 (2022)	43 団体	86%

【主な実施計画事業等】

■市民と協働による文化芸術推進事業 ■地域の歴史、自然、文化に関する普及啓発 ■文化財の保護と伝承活動の支援

【関係する個別計画】

■名寄市社会教育推進計画

中期基本計画 基本目標主要施策成果と課題について

主要施策名	V-9_施策名 地域文化の継承と創造
-------	--------------------

① 現状と課題の解決のため取り組んだ事業の成果など(事業実績)

文化芸術活動への市民の参加・発表の機会を確保するため、市民文化祭や風連文化祭を開催し、文化芸術団体や文化活動の活発化を促進してきた。

市民が文化芸術に親しみ、文化芸術鑑賞機会の充実が図れるよう、なよろ舞台芸術劇場実行委員会を支援し、様々なジャンルの事業を実施してきた。

② 解決された課題と事業実施後(中)の現状と今後の課題

- ・風連文化祭については、多くの団体の創作活動を支援することにつながり、充実した発表、展示となっている。
- ・文化協会の高齢化や各文化団体の会員減が将来的な懸念材料である。
- ・大ホール「EN-RAY」を活用し、なよろ舞台芸術劇場実行委員会と連携し事業を実施してきたが、文化芸術活動の拠点としてのみではなく、コミュニティ醸成の場としても市民に親しまれる利用しやすい施設を継続して目指す必要がある。

※ 上記の事業実績と現状と今後の課題のまとめ

- ・市民文化祭についてはアフターコロナを見据えた検討を進める必要がある。
- ・風連文化祭や御料太鼓への活動充実を図るため支援の継続を図る。
- ・文化協会や各文化団体の高齢化や会員の減が将来的に懸念される。
- ・大ホール「EN-RAY」を核として、事業を実施してきたが、コミュニティ醸成の場としても、市民に親しまれる施設を目指す必要がある。